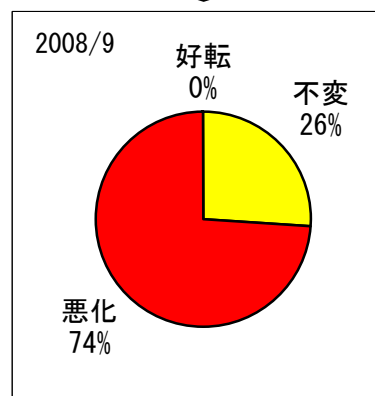
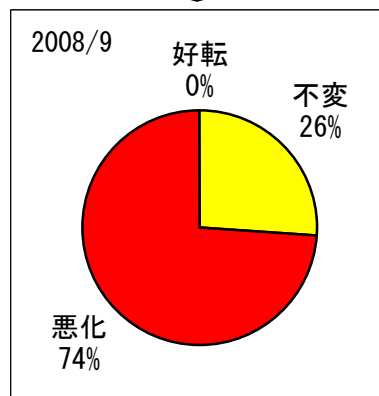
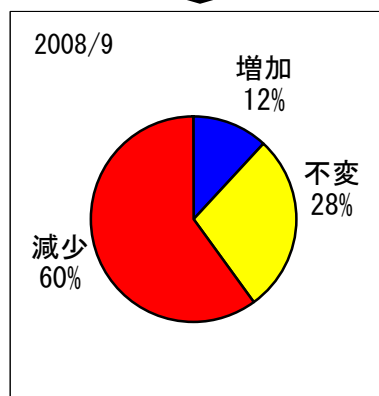
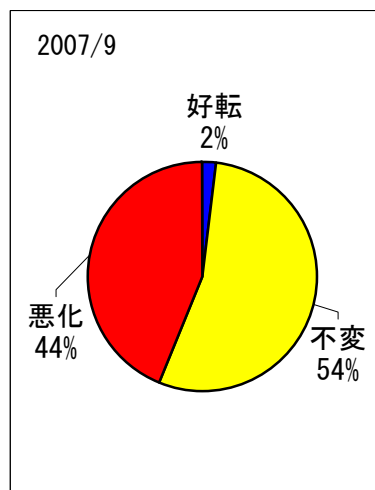
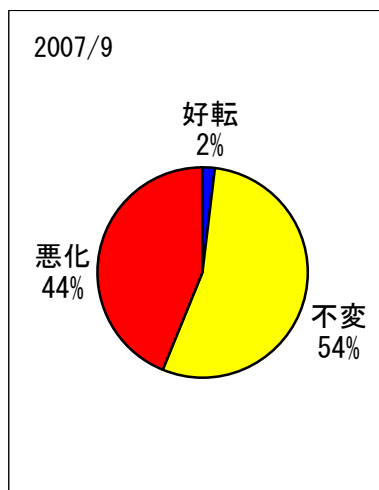
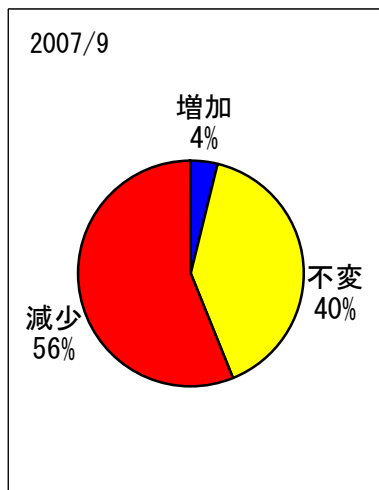


# データから見た業界の動き (平成20年9月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	07/9	08/8	08/9	07/9	08/8	08/9	2007/9	2008/8	2008/9
売上高	-50	-80	-40	-53	-47	-53	-52	-60	-48
収益状況	-45	-60	-80	-40	-67	-70	-42	-64	-74
景況感	-45	-70	-75	-40	-70	-73	-42	-70	-74

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の9月の景況は、全業種のD I値で、売上高は-48（前年同月比+4）、収益状況は-74（前年同月比-32）、景況感は-74（前年同月比-32）と全体でD I値のマイナス傾向は依然として続いている。

業種別では、製造業の売上高のD I値は-40（前年同月比+10）、収益状況は-80（前年同月比-35）、景況感は-75（前年同月比-30）であった。

非製造業のD I値においては、売上高は-53（前年同月比±0）、収益状況は-70（前年同月比-30）、景況感は-73（前年同月比-33）となった。

対前年同月比のD I値では、製造業、非製造業ともに収益状況と景況感のポイントが大幅に下がっているものの、売上高では製造業で10ポイント改善、非製造業でも±0となっている。

この要因としては、前倒し受注により売上げが伸長した業種と、原材料等のコスト上昇を要因として売上増となった一部業界の影響があり、一時的に9月の売上D I値が上昇したものと推測できる。

ガソリン、軽油価格の若干の値下がりを受け、今後の消費者動向に期待したいところであるが、アメリカ経済の低迷による世界的な金融不安の中で、我が国の景気の不透明感は、益々増しており、県内中小企業にとっては、依然として先行きの見えない厳しい経営環境が続いている。

## ■ トピックス

今年度から、当会でも取り組みを開始した「地域力連携拠点事業」(中小企業庁・経済産業省委託事業)では、中小企業の経営課題解決や経営力向上に対する支援が行われている。

そこで、今回は、各業界内の個企業が抱える課題や今後考えている計画(新事業展開等)などについてのコメントを求めた。

食品製造「米粉を使った麺の開発と試食会などに力を入れたい。」繊維・同製品「業界では、技術の伝承を最重要課題として取り組みが急務である。」電気機器「情報が他(ライバル)メーカーに知られることが防げない課題がある」小売(水産物)「後継者不足の解消への取り組みが課題」宿泊業「ワインセミナープラン」として甲府市内のワイナリーと提携して、宿泊客の送迎、ワイナリーの見学、ランチ、試飲のコースを安く提供する取り組みを始めた旅館がある。」自動車整備「中小事業者が対象となる融資制度の充実」建設(住宅関連)「共通の課題対応として新規顧客開拓のための住宅セミナーの開催を行う」運輸(トラック)「中央市に2,200坪の用地を確保し、3PLの対応型汎用センターの運用を年末より行う。」

こうしたコメントからは、業界の抱える問題が、そのまま個々企業の経営課題に繋がっている状況がうかがえる。こうした課題への対応は、企業単独では難しい側面もあり、さらに複雑化させてしまうケースも見受けられることから、本年度、中央会が実施する「地域力連携拠点事業」の経営相談(無料)などの制度を効率的に活用して頂きたい。

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食品(洋菓子)／小麦粉等の原料値上がりが見込まれる中、OEMの前倒し受注もあり売上は伸長したが、この反動から10月以降は落ち込む見込み。
- 繊維・同製品(織物)／整理加工業者から15%値上げの要請。薬品会社による寡占が進み、一方的に値決めされている。好調だった袖表地も徐々に低調。小売が悪いと生産地では改善が難しい。
- 繊維・同製品(ニット)／消費が極端に冷え込み、消費者は商品を更に厳選して買う傾向が顕著。
- 窯業・土石業(砂利)／仕事量については上昇傾向にあるが、業界の景況が好転に向かうのは12月に入ってからと予想。その後は、3月までは活発な荷動きになるものと期待。
- 窯業・土石業(生コン)／出荷数量は半期が経過した中で前年比87%と減少。価格対策により外部に流れた物件も見受けられる。
- 一般機器／9月の売上は良かったが、10月分より落ち込む予想。海外が悪く、低下見込み。
- 鉄鋼・金属／コストダウンの要請が引き続き行われ、9月末に大手メーカーの工場閉鎖などプラス材料はない。建設関係は、大型郊外店出店のため造成が始まり仕事が出てきた。
- その他(貴金属)／業界企業の売上も収益も恒久的に悪化。改善の見込みも見受けられない。地金や研磨の原石の値段も急速に値上がりし、販売単価に転嫁されず、収益の悪化につながっている。
- その他(貴金属)／当社ではたまたま受注が重なり、9月の売上は良かったが、10月はおそらく低下すると思われる。好調な月があっても総じて不景気である。

## ■非製造業

- 卸売(衣料品)／例年よりは気温が低く、秋冬の立ち上がりに期待もあったが、変動なく低調。
- 小売(食肉)／中旬から下旬にかけて、消費が急激に落ち込み、仕入れ価格は高値安定状態のため、収益状況は非常に厳しい。大手スーパーが低価格路線に移行しつつある中、地方小売り企業は地産地費の要求に応えるため、価格を下げる事が出来ない。
- 小売(自動車)新車の利益率が12.2%から10.5%に減少した。
- 小売(電機製品)夏物商品が順調に推移していたが、量販店の決算月の影響により後半減退した結果、9月全体で3%程度前年割れとなった。
- 小売(石油)／9月に入り原油価格が急落したため、原油調達コストの下落とドライバーの節約の動向により、県内給油所は10円程度の値下げを実施した。10月は原油価格の値下がり状況下で販売数量の不振により値下げが予想されるが、10月からは価格の透明性・公平性とコスト意識の徹底をはかるため、市場連動の価格となる予定である。
- 宿泊業／首都圏に比較的近い山梨への日帰りツアー客が増加するものの、宿泊に結び付かない。
- 建設業(総合)／第3四半期になり発注量が徐々に増加しているが、受注競争から単価も低く採算性は悪化。最近の公共工事では、不調や入札取り止めの物件もあり、業界全体が不安定な状況。
- 建設業(型枠)／公共事業の減少、世界的経済不況による設備投資の減少など、業界を取り巻く状況はかつて無いほど厳しい。仕事をしてても代金を回収できない事例も見られる。
- 建設業(鉄構)／鋼材価格の高騰で鉄骨建築の落ち込み、着工延期などで工事量が減少してきた。上位グレードの企業は当面の工事量は確保されているが、下位グレードの企業には独自受注の物件もなく厳しい状況が続く模様。
- 設備工事(管設備)／工事量は不変、材料費の上昇により、販売価格は上昇しているが、収益上は微減。(材料費の上昇分すべてを転嫁することができない)
- 運輸(トラック)／8月までの燃料費が対前年比152%増となり、他の支出抑制も及ばない状況。集配の荷物量が減少しており、サーチャージ制度の導入が思うように進まない。